

キャッチコピー **自分の目で見ろ。みんなの、誰かの目ではなく。**

漫画企画『パトロンの三つのルール』

好きな作品：三浦しをんさん『星間商事株式会社社史編纂室』

趣味では同人活動、会社では社史編纂をする女性を描く本作の本質は、「『みんな』『誰か』の視点ではなく、自分自身がどう思うのか」ということの大切さ。キャッチコピー:「自分の目で見ろ。みんなの、誰かの目ではなく。」

×

三田紀房さんの魅力：決められたルールの中で葛藤しながら目的に向かって邁進する物語

『ドラゴン桜』では「大学受験」というルールの中で。『インベスターZ』では金融に関する法・ルールの中で。ルールの中で葛藤しながら目的に向かう物語が、三田先生の魅力。

↓

**主人公が、人に課されたルールの中で相手の言いなりにならず、自分の正しさを持って生きる物語**

企画背景：

SNS 上では「正しさ」を振りかざした他人叩きが繰り返されている。価値観が多様化し信じるべきものが分からない不安の中で、逆に社会的な正しさが求められ、「みんな」の価値観に沿うよう求められる現代社会。その価値観、人の「正しさ」を内面化せず「自分の目で見ろ」ことをテーマにした企画。

作品概要：

親が借金を負う主人公が、クラウドファンディングで資金を集め大学に通い、パトロンの課すルールを順守しながらも、パトロンの言いなりにならず、自分の目的に向かって進む物語。課されたルールと、それが導く社会的な「正しさ」中で、自分の正しさに従う主人公を描く。

あらすじ：

主人公の親は起業し、会社を経営していた。親の会社が倒産し、大学進学させてやる金が出せないとわれ、親の言葉に疑問を覚えず尊敬までしていた彼は、呆然とする。考えに従わせておきながら急に子育てを放棄した親、そして親の考えを疑わずに生きてきた自分を呪い、どうにか成り上がり、起業して親を超えることを誓う。

高校卒業まで血の滲む努力を重ね、全国模試一桁の成績表を持って、大学費用を集めるクラウドファンディングを行ったところ、一人の会社経営者から直接連絡が来る。大学卒業後に自分の会社に入るなら、大学費用・生活費をすべて出すという連絡だった。この条件に納得できない主人公に対して、このパトロンは代わりに三つのルールを課す。一つ目は、大学卒業まで自分以外の者からどんな資金も得ないこと。バイトも不可。二つ目は、恋人をなるべく切らさず、いないときは週に一度合コンに参加すること。三つめは、テニスサークルに入ること。これらのルールを破った場合、もしくは主人公が自ら望んだ場合には、彼はパトロンの会社に入ることになり、援助額は増額されるという。主人公はこの条件を飲み、大学生活が始まる。

限られた生活費で生活していくこと自体が厳しい中、主人公は三つのルールによって、パトロンの会社に入ることがいかに楽で、人から羨ましがられ、社会的に正しいことかを実感していく。彼は課されたルールを守りながら、パトロンの、そして社会の「正しさ」を内面化せず、自分の価値観、目的を保ち続けることができるのか。